

令和6年度 GKP 広報大賞 エントリーシート

団体名 岡山県勝央町	団体区分（混成の場合は複数☑） <input checked="" type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 民間 <input checked="" type="checkbox"/> 学校・NPO・個人等
取組名 オリジナルなマンホール&グッズ制作で町と下水道をPR	
責任者（実際に広報に取り組んだチームの代表者） 氏 名：野上 敏啓 所 属：勝央町役場総務部 参事 電 話：0868-38-3111 E-mail：soumu@town.shoo.okayama.jp	
担当チームの構成 （外部人材を活用している場合や外部委託をしている場合等は、その旨記載して下さい） 企画・実施・協力：役場職員、岡山県立大学、県立勝間田高校	
取組のポイント （一言でいうとどういう取組かを、箇条書き等で記載して下さい） ●町制施行70周年を記念した「オリジナルマンホール」とそれを模したオリジナルグッズ「木製コースター」を制作 ●マンホールのデザインは県立大学（大学院）と共同研究（産学官連携の一環） ●複数のデザイン案を町民に提示、人気投票を行ってデザインを決定（マンホールへの親しみ創出） ●マンホールを設置する「台座」やオリジナルグッズの「木製コースター」は、地元の県立高校に制作を依頼（県産材の活用と高校のPR）	
アピールポイント 単純にオリジナルマンホールを作って設置するだけではない点。 ■マンホールデザインの考案：県立大学（大学院）との共同研究 ■マンホールデザインの決定：町民向けアンケートを実施し、マンホールへの親しみ感を創出 ■展示：町政施行70周年記念式典時や本庁舎内に展示し、町民への認知度向上を図る ■地元の県立勝間田高校の協力：マンホール展示用の台座やオリジナルグッズ「木製コースター」の制作 ■キャンペーン：マンホールの写真をポストした町の公式Instagramをフォロー&リポストすることで「木製コースター」をプレゼントするキャンペーンを展開中。マンホールファンへの浸透を図る。	
要したコスト 総額 1,814,580円 【内訳】マンホール制作費 1,559,580円 オリジナルグッズ 原材料費 200,000円 岡山県立大学との共同研究事業 55,000円	

ウラ面に続きます

取組の概要（適宜、写真や図等を挿入して下さい。複数年度にわたる取組の場合は、その旨記載して下さい）

本町制が施行されて70年を記念した事業の一環で、町の魅力をより多くの人にアピール出来る「マンホール」の制作が決まったことを受けて始まった取組み。

【デザインの決定】

しかし、単に行政だけでマンホールを作って設置するだけでは「おもしろみ」が無いと考え、まずはデザインの考案を岡山県立大学との共同研究を依頼。大学院教授と院生の協力のもと、10種類のデザインが提案された。

その後、町民向けのアンケート（人気投票）を実施して、町の花や観光スポット、マスコットキャラクターなどを取り入れたデザイン(写真1)に決定した。

【展示・設置】

制作されたマンホールは、地域住民が運営する店舗「どんどん市場」で、保育園児など招待してお披露目を開催し初披露。さらに、その後70周年記念式典会場や役場本庁舎で展示(写真2)し、町のPRに活用するとともに町民に親しみを持ってもらう機会の創出を図った。制作した6枚のうち5枚は「どんどん市場（前述）」を含む町内各地に設置。特に「どんどん市場」への設置は、集客による地域経済への波及効果も期待できるものである。

残りの1枚は様々なイベント時に披露するほか、町内保育園への巡回展示も予定している。

【オリジナルグッズなど】

マンホールを展示するための台座の制作を地元の県立高校に依頼。県産材（ヒノキ）を活用した特性台座(写真2)が出来上がった。

さらに、木工技術を活かしたオリジナルグッズ「木製コースター」(写真3)も2000枚製作。町やマンホールのPRのため様々なイベント等で配布しているほか、マンホールの写真をポストした町の公式 Instagram をフォロー&リポストすることでコースターをプレゼントするキャンペーンも展開中(写真3)。全国のマンホールファンに町をPRするとともに、マンホールを通した下水道の広報を展開している。

▶写真3



▲写真1



▲写真2



成果（数字を交えるなど、できるだけ具体的に記載して下さい）

県立大学との共同研究の中で、町の特徴を捉えた **10種類のマンホール案**が提示された。町民アンケートでは、**のべ1790人からの投票**があり、注目度の高さがうかがえた。投票結果を受け、同一デザインのものを**6枚製造**。地理的に偏りが出ないように、町内各地に設置することができた。

マンホールを模したオリジナルグッズ「木製コースター」については、県立勝間田高校の協力のもと、**2000枚を制作**。町が主催する会議で使用したり、イベント時に配布したりするなどして認知度の向上と町のPRに努めている。11月時点でおおよそ**700枚を配布済み**。

オリジナルマンホールとオリジナルグッズは町の Instagram でも情報発信しており、**フォロワー数は150人→565人に増加（11/14時点）**。マンホールを通した、町と下水道の効果的な広報が行えている。